

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	t e c o		
○保護者評価実施期間	2025年9月15日		～ 2025年10月25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年10月1日		～ 2025年10月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「すべては子どもの環境のために」の理念のもと日々の取り組みの中で、個々にあった環境設定を行っている。	子ども自身が「やってみよう」と思える環境を整え、行動や表現の奥にある気持ちを丁寧に観察しながら支援を行っています。「評価ではなく観察」を重んじ、子どもの内側の成長を尊重しています。	子どもが自ら「やってみよう」と思える瞬間をより多く生み出せるよう、環境や提示方法を考えスタッフ間で観察の視点を共有し、子どもの小さな変化や内面の動きなど振り返りの時間を更に充実させていきます。
2	観察・実践から生まれる支援 「モンテのお部屋」「運動のお部屋」「アートのお部屋」3つのお部屋に分かれており、環境ごとに目的をもった空間づくりを行っています。	スタッフは、観察を通して一人ひとりのペースを尊重し、発達段階に合わせた「観察」と「支援のタイミング」を共有しています。	今後も定期的なケース検討や振り返りを通して、子どもの行動や表情などの背景にある思いを丁寧に読み取り、環境や関わり方を事業所全体で見直していきます。
3	人材・チームで支える多職種連携 保育士・作業療法士・理学療法士など多職種がチームとなって子どもを支援している。	園や家庭との連携を重視し、アセスメント・モニタリング・保育所等訪問支援を通して全体を見通したサポートを行いすべてのスタッフが共通の理念を持ち、「どう関わるか」よりも「どんな環境で子どもが自ら行動していけるのか」を常に話し合っています。	すべてのスタッフが共通の理念を持ち、「どう関わるか」よりも「どんな環境で子どもが自ら行動していけるのか」を常に話し合いながら支援しています。こうした日々の対話と実践を重ねる中で、子どもが主体的に関わりを広げていけるような環境づくりをさらに充実させていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「ほめない・させない・おこらない・おしえない」などの理念は深い理解を必要とするため、新しい職員に伝わるまで時間がかかることがある。	理念を日常の実践に落とし込むための研修や対話の場を継続的に設けていきます。	質的变化を記録・共有できる独自の報告様式の導入、対話・省察の場を定期的に設けることが重要となり、理念を体現しながらも、共有・継承・見える化の仕組みを整えていく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 t e c o

公表日 2025 年 10 月 31 日

利用児童数 33名

回収数 26

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22	3	1	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	23	0	0	3		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	2	0	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25	1	0	0	身体が大きき子でもストレスなく使える遊具があると嬉しい。	今後、検討して参ります。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25	1	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	24	2	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	25	1	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24	1	0	1	見学していないので、専門的なことは分からないが楽しそうに行っているのが適切だろうと思います。	それぞれ支援計画に反映させていただいておりますが、更に具体的に分かりやすく説明させていただきます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	1	0	1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	18	4	1	3		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	2	0	2	参加できていないですが、色々なイベントをされてそうなのでまた参加したいです。	毎月、家族支援プログラムのご案内をさせていただいております。是非ご参加いただければと思います。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25	1	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	1	0	2		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25	1	0	0		
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	5	1	2		
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	21	3	0	2			

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	0	1	0	他の保護者が近くにいる状況でプライベート（病院のリハビリ等）な話をされ不快に感じたことがある。	配慮に欠けていたことをお詫びいたしました。送迎の際にお伺いするのではなく入室いただいております
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	q	0	1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	0	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	22	1	0	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	2	0	3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	1	0	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	20	3	0	3		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	26	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	26	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	0	0	0		

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	t e c o
------	---------

公表日 2025年10月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		3部屋に分かれているので、可能な限り各部屋に分かれて活動に取り組める環境を作っています。	子どもの主体性を重んじているため、活動が一つの部屋に集中した時、スペースにゆとりがなくなってしまうことがある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		適切に配置している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	6	施設の構造上、一部段差がある箇所にはゲートや扉を設置する等子どもにわかりやすいよう工夫している。	一部の段差や設備の改善を検討する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	こまめに清掃し心地よく過ごせるよう心掛けている。	備品（椅子や机など）については、年数が経ってきたのを踏まえ、改善していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		研修や目標設定と振り返り、情報共有など全ての職員で可能な限り行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		保護者の評価を踏まえ、保護者の意向等を把握し検討する機会を都度設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		職員間の風通しもよく、日々業務の中で気付きや意見等を話せる環境であるため業務改善に繋がりやすい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9		評価結果を業務改善に努めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		法人内では定期的に研修を行っている。一部の職員ではあるが、外部研修にも参加し社内共有を行っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		支援プログラムを作成しホームページにて公表を行っている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		保護者面談を行い、利用児童や保護者の意向を確認した上で客観的に分析した上で計画を立てている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		日々の支援で個々に観察を行い職員間で共有し共通理解の下で子どもの最善の利益を考慮した検討会を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		職員間で共有し、計画に沿った支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		園での様子や日々支援での観察から捉えたインフォーマルなアセスメント、発達検査等からのフォーマルなアセスメントを用いて総合的に確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		児童発達支援ガイドラインに沿った子どもの支援に必要な項目を適切に設定し、日々の観察やモニタリングを通して更に検討し具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		意見を出し合える環境ではあるので活動プログラムの立案もチームで行えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		子どもが主体的に取り組めるよう環境設定を行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	個別で専門的支援を行い、子どもの状況に応じて小集団での活動も組み合わせられた計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	都度、行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	支援終了後には、職員間で支援の振り返りや利用児童の様子や気付き等職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	日々の記録は徹底して行っている。支援の検証を行った時は改善に繋げている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	定期的にモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	子どもの状況をよく理解した職員が参画している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	連携を行い支援に繋げている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	園連携や保育所等訪問支援を行い情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	就学時の移行の際には、保護者からの希望に応じて申し送りを作成する場合もあるが、お電話にて申し送りを行わせていただき情報共有へと繋げている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	児童発達支援センター（つぼみ園・もず園）との連携を行った際に助言を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9	地域のこぐまも森保育園と交流や合同避難訓練なども行っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9	利用時や面談時、父母会などを通じて共通理解できるよう日々心掛けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	父母の会や面談時などを通じて情報提供を行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	契約時やご質問をいただいた時なども含め丁寧に説明することを心掛けている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	アセスメントの際には、本児や保護者の意思を尊重し、意向を確認させていただいている。	
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	丁寧に説明することを心掛け、必ず同意を得ている。		
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	常に相談援助が行えるよう心掛けている。		

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		定期的に父母の会を開催し毎月保護者同士が集え交流できるよう「t e c oのわ」を開催している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		利用時には、保護者よりお子さんの最近の様子を記入していただく記録票の中にいつでも面談申し入れができるよう面談希望日が記入できる箇所を設けている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9		専用ソフトを使用し利用時には活動の様子を保護者に送付し行事予定等、SNSやt e c o通信、玄関前での掲示で発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		SNSへ掲載する場合は保護者からの同意書で確認を行い、個人が特定できないよう工夫している。書類に関しては、個人情報が流出しないよう留意し厳密に保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		口頭だけではなく、可視化して伝達できるよう努めている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		近隣の保育園児をお招きして交流させていただいている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		各マニュアルは作成済である。定期的に訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		業務継続計画は策定済である。定期的に避難訓練は行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		契約時には、病歴や服薬については確認を行っている。利用時には必ず体調確認を行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		日々の食事提供はないが、クッキング週間では季節の食材を一種類のみ提供するので、保護者に都度アレルギー確認を行っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		安全計画は策定済である。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		職員間で共有し、再発防止を踏まえ合同会議に於いて事業所間での報告検討会を行い、定期的に設備点検を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		身体拘束、虐待防止に向け研修を行うと共に職員のストレスが溜まらない環境作りを心掛けている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		個別支援計画に記載し、説明を行っている。		